

令和7年8月26日

—日本水道協会会長表彰—

令和7年度水道イノベーション賞・水道イノベーション広報大賞について

公益社団法人日本水道協会は、去る令和7年8月20日（水）、令和7年度水道イノベーション賞及び水道イノベーション広報大賞の選考会を開催しました。今年度は水道イノベーション賞13取組、新設した水道イノベーション広報大賞は28取組の応募があり、厳正なる選考の結果、令和7年度水道イノベーション賞大賞および特別賞2取組、水道イノベーション広報大賞および広報特別賞3取組が下記のとおり決定しましたので公表します。

なお、授賞式は、令和7年10月29日（水）から開催します日本水道協会全国会議（於：広島市）にて行う予定です。

記

◎水道イノベーション賞

<大賞>

受賞団体名：名古屋市上下水道局

受賞取組名：災害復興支援におけるフリーGISソフト「QGIS」の活用

～速やかな管路情報の整理・可視化・共有による調査・復旧活動の効率化～

<特別賞>

受賞団体名：神奈川県企業庁、横浜市水道局、川崎市上下水道局、

横須賀市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団

受賞取組名：神奈川県内の水道5事業者が目指す「水道システム再構築」の取組

（脱炭素化に繋がる相模川上流からの優先取水）

受賞団体名：久留米市企業局

受賞取組名：浄水施設における発動指令電源の容量市場への提供による脱炭素及び

収益増への取組

※ 受賞理由は「別紙1」のとおり

◎水道イノベーション広報大賞

<広報大賞>

受賞団体名：熊本市上下水道局

受賞取組名：まちなか水道管リニューアル大作戦

～伝えるチカラで、“見えない工事”を“見えるカタチ”に～

<広報特別賞>

受賞団体名：横浜市水道局

受賞取組名：子ども向け水道工事体験模型を活用した新たな水道工事 P R

受賞団体名：株式会社 栗本鐵工所

受賞取組名：水道イベントにあわせて、水道の大切さをアピール

～ダクタイル鉄管に見立てた柱で、メッセージを発信～

受賞団体名：大成機工株式会社

受賞取組名：キッザニア甲子園への「水道施設パビリオン」出展

※ 受賞理由は「別紙2」のとおり

担当：水道技術総合研究所 星野、古川

TEL : 03-3264-2337 Mail:kenkyusho@jwwa.or.jp

令和7年度水道イノベーション賞 受賞理由

大賞 名古屋市上下水道局

災害復興支援におけるフリーGISソフト「QGIS」の活用

～速やかな管路情報の整理・可視化・共有による調査・復旧活動の効率化～

災害時に無償で利用できるオープンソースの GIS を活用し、現地に簡易な水道台帳システムを構築し、コストをかけすことなく調査・復旧活動の迅速化を実現した取組である。

調査・復旧活動には、水道管の管路情報の把握が必要不可欠であるが、GIS で管理されている水道台帳システム端末が少数のため、管路情報の可視化、関係者間の共有が進まない状況にあった。

GIS ソフト導入により、簡易な水道台帳システムを構築することで、1人1台使用可能な環境整備を実現し、被災地である現地の要望に応じて栓弁類等の表示調整、漏水箇所のプロット機能等の追加により、復旧作業の効率化と情報共有を実現したものである。このことにより、被災自治体、応援事業体ともに調査・復旧活動の効率化を可能とした取組として、大いに評価できる。

特別賞 神奈川県企業庁、横浜市水道局、川崎市上下水道局、 横須賀市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団

神奈川県内の水道5事業者が目指す「水道システム再構築」の取組 (脱炭素化に繋がる相模川上流からの優先取水)

浄水場の統廃合により未利用となった水利権を神奈川県内の水道5事業者が広域的に連携し、上流の水利権を活用して安定かつ効率的な水道システムを構築した取組である。

施設のダウンサイジングにより未利用となった水利権を、県内の5事業者が連携して「水道システムの再構築」に取り組んだこと、上流からの取水したことにより自然流下の導水が可能となり、停電時における減断水リスクの低減及び水源における水質事故リスクの低減、給水の安定性が向上するなど、様々な検討がなされた取組であり、高く評価できる。

特別賞 久留米市企業局

浄水施設における発動指令電源の容量市場への提供による脱炭素及び 収益増への取組

ポンプ等の節電能力を発電指令電源として価値化し、市の代わりに容量市場で売買可能な仲介業者（アグリゲーター）の選定のための一般競争入札手法の構築に取り組み、1000kW 以上の電源容量がなくても仲介業者との契約により容量市場へ参入できる手法を確立した取組である。

大規模施設を保有しない中小事業体において、小容量での容量市場への参入しやすい入札方法の確立など、他の事業体の参考となる取組であり、高く評価できる。

令和7年度水道イノベーション広報大賞 受賞理由

広報大賞 熊本市上下水道局

まちなか水道管リニューアル大作戦 ～伝えるチカラで、“見えない工事”を“見えるカタチ”に～

中心市街地での老朽化した水道管の更新に対し、アーケード改修工事などと連携して実施していたが、埋設物の多さや地元調整の煩雑さから取替工事が進まないという課題があった。

このため事業の意義や必要性といった認知度向上、工事の情報を多くの方々に行き届かせるため積極的な広報活動により、地域の理解を深めながら更新事業の円滑な遂行を図った取組である。

広報にあたっては、「広範囲」かつ「様々なターゲット」の2つの情報発信を意識した活動を展開し、様々な広報を用いて、幅広いターゲットへの情報発信を行った結果、約7割の市民に水道管リニューアル大作戦が認知された。この様な広報活動は、同じような課題を抱えている他事業体の参考事例として、大いに評価できる。

広報特別賞 横浜市水道局

子ども向け水道工事体験模型を活用した新たな水道工事PR

配管整備の重要性のPRについて、市民の十分な理解が得られていない現状に対し、子供が遊びながら工事の手順を体験することで、幅広い世代に配水管整備の理解向上を目指した取組である。

配水管整備の重要性をPRするため、子ども向けPRプロジェクトを設置し、水道工事の重要性を遊びながら学べる「子ども向け水道工事体験模型」を作成し、直感的に理解させるという手法は効果的であるとともに、様々なイベントにおいて多くの方々にPRしている取組は、水道工事への理解促進、人材育成、持続性を兼ね備えており、高く評価できる。

広報特別賞 株式会社栗本鐵工所

水道イベントにあわせて、水道の大切さをアピール ～ダクタイル鉄管に見立てた柱で、メッセージを発信～

水道の大切さや水道管路の老朽化、水道施設の耐震化の必要性などを広く一般の方にも知っていただくため、神戸水道展の実施に合わせて、JR駅構内という公共性が高く多くの人が行き来する場所で、駅の柱を鉄管に模したデザイン、ユーモアあるキャッチコピーにより、水道の重要性をアピールする広報活動を展開した取組である。

費用対効果を高めるためイベント開催期間に集中して実施するとともに、「遊び心」を大切にした広報活動により、水道の重要性と水道へ興味をもっていただくための効果的な取組であり、高く評価できる。

広報特別賞 大成機工株式会社

キッザニア甲子園への「水道施設パビリオン」出展

職業・体験施設であるキッザニア甲子園に「水道施設パビリオン」を出展し、子どもたちが水道の仕事を体験することにより、ライフラインを整備して街を守る仕事に興味や理解を深めてもらうとともに、水道事業の大切さを伝えることを重要な活動目的とした取組である。

水道事業は一般的な認知度が低く認知度向上が課題となっている、このため子ども達への広報活動が必要であるとの観点から、キッザニア甲子園へ「水道施設パビリオン」を出展し、子ども達の職業体験を通じて水道への興味をもつてもらい、将来の水道事業の担い手としてのすそ野を広げる取組であり、高く評価できる。